

## 2.4 ブロッコリー

### 地域慣行基準

#### 【化学肥料】

区 分	窒素成分量 【kg/10a】	備 考
県下全域	26	

※前年秋に有機物の腐熟促進のため、石灰窒素などの窒素を含有する肥料を施用した場合は、窒素成分で4kg/10aを上限に、施用した窒素成分を地域慣行基準に加えるものとする。

#### (1) 特徴及び吸収特性

ブロッコリーの10a当たりの目標収量は4kg詰270箱、1,080kgで、同じアブラナ科のキャベツ5,600kgに比べ遙かに少ないが、これはブロッコリーでは花蕾しか収穫しないことに理由がある。花蕾は収穫する際の大きさが決まっていて花蕾部の養分吸収量は一定である。このため**必要以上の養分吸収は花蕾部の増大による収量の増加につながらず脇芽や茎葉などの残さを増やすだけ**である。また、ブロッコリー花蕾の品質は肥培管理に大きく影響され、**出蕾期以降の窒素過剰はリーフィーやホローステムといった異常花蕾の発生を助長**しやすい。「ブロッコリーの高品質・多収生産は充実した外葉の生育と緩慢な花蕾形成で決まる」といわれているとおり、花蕾が見える頃までに株をしっかりと作っておき、**花蕾が大きくなる時期は窒素の肥効を抑える**。ブロッコリーの吸肥力は比較的強いが**根は比較的浅く分布し湿害を受けやすい**。**サフソイラー**をひいたり有機物質材を施用するなどして**排水性を改良**することが生産の安定につながる。

養分吸収量（平成20・21年 野菜花き試験場佐久支場）

部 位	乾物重 kg/10 a	養分含有量 kg/10 a			養分含有率 乾物%		
		窒素	リン酸	カリ	窒素	リン酸	カリ
花蕾部	168	6.7	1.4	6.3	3.99	0.83	3.75
残さ部	588	15.2	2.7	23.7	2.59	0.46	4.03
全体	756	21.9	4.1	30.0			